



東邦大学

いのち
生命の科学で未来をつなぐ

東邦大学における GakuNin RDMの現状

片桐 由起子(東邦大学メディアネットセンター長)

学術情報基盤オープンフォーラム2024

どうする？研究データ管理

日時：2024年6月11日(火)

場所：一橋大学 一橋講堂

本日の内容

1. 東邦大学の研究データに関する取り組み
2. 2つのアンケート調査
 - (1) 全学を対象とした「研究データ管理に関するアンケート」
 - (2) トライアル利用者を対象とした「GaKuNin RDMアンケート」
3. 今後の課題



1. 東邦大学の研究データに関する取り組み

東邦大学の概要(1)

- 開設 大正14年(1925) 帝国女子医学専門学校
- 学部構成 医学部, 薬学部, 理学部, 看護学部, 健康科学部
- 所在 東京都大田区(医学部, 看護学部)
千葉県船橋市(薬学部, 理学部, 健康科学部)
- 附属施設 大森病院(大田区), 大橋病院(目黒区)
佐倉病院(千葉県佐倉市)
羽田空港クリニック
羽田空港第3ターミナルクリニック
附属東邦中学・高等学校(千葉県習志野市)
駒場東邦中学・高等学校(世田谷区)



東邦大学の概要(2)

教員数・学生数(2023年5月1日現在)

学部等	大学専任教員数	学部生数	大学院生
医学部	1,137	717	120
薬学部	72	1,451	40
理学部	109	1,971	234
看護学部	47	439	42
健康科学部	26	266	0
その他	3	0	0
合計	1,394	4,844	436



研究データ管理に対する取り組み(1)

- 2022年6月 全学SD開催
「大学における組織的な研究データ管理の実現に向けて」
込山悠介先生
- 2022年6月 研究データ管理(RDM)に関する検討会 発足
(学長, 副学長, メディアネットセンター長, 教育・
研究支援センター長, ネットワークセンター長)
- 2022年11月 GakuNin RDM 契約
- 2022年12月 研究データ管理ポリシー策定WG 発足
(検討会メンバー+5学部の教育研究支援
センター副センター長)

研究データ管理に対する取り組み(2)

- 2023年6月
「研究データ管理ポリシー」及び「解説」の策定・承認
- 2023年6月 GakuNin RDM トライアル利用の開始
※各学部からの推薦者を対象とした。
利用者数15名(医8, 理2, 薬2, 看2, 健1)
- 2023年9月 医学メディアセンター, 習志野メディアセンター
展示会「研究データ管理とGakuNin RDM」
- 2023年9月～10月
全学を対象とした「研究データ管理に関するアンケート」
実施



研究データ管理に対する取り組み(3)

- 2023年10月 学長と今後の方針について懇談
 - ・今後の課題として、東邦の研究データ管理全体を統括する部署や担当教員の必要性について相談。
 - ・GakuNin RDM運用規定の整備や利用者向け支援サイトの作成について確認。
- 2024年1月 トライアル利用者を対象とした「GaKuNin RDMアンケート」実施
- 2024年1月 研究データ管理ポリシー策定WGの開催



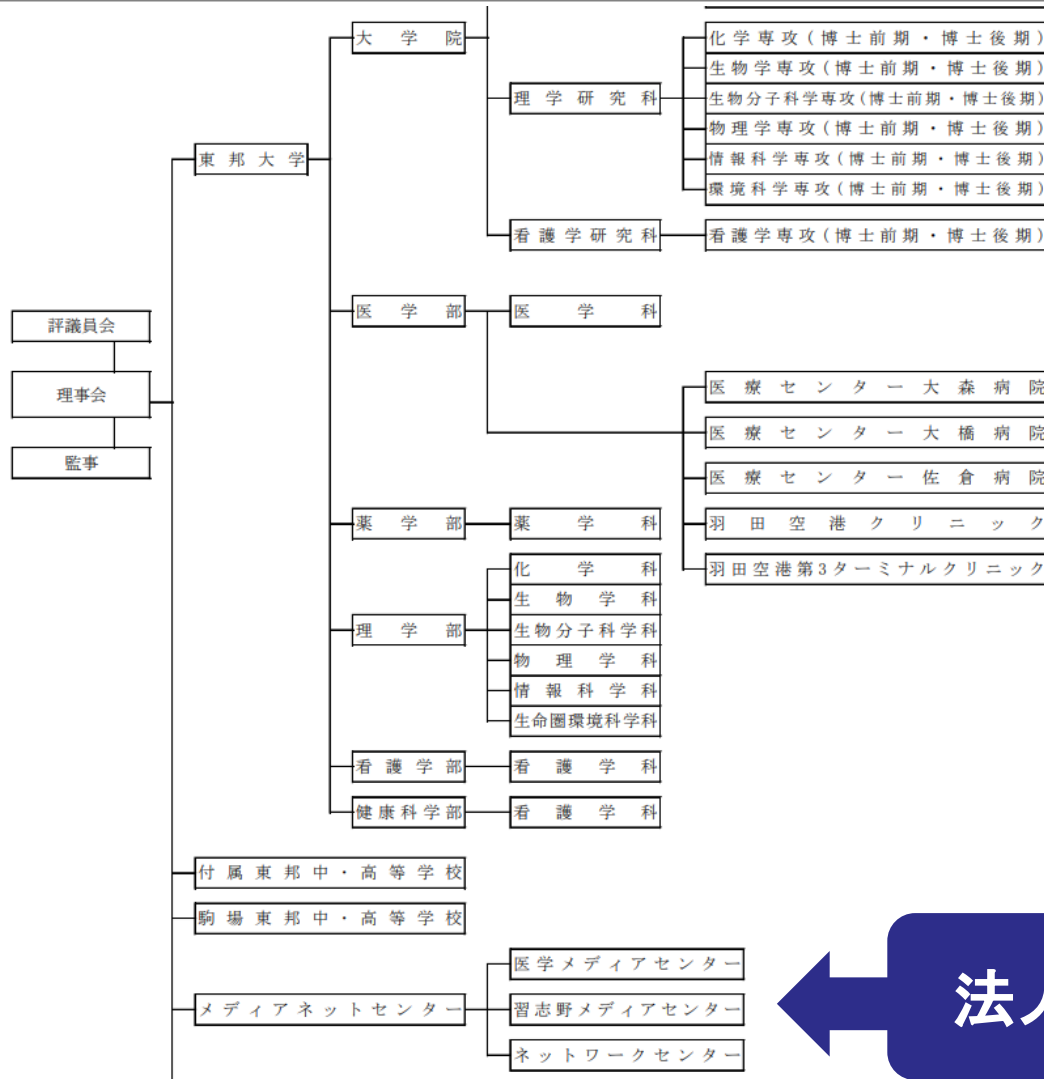
研究データ管理に対する取り組み(4)

- 2024年1月 研究データ管理ポリシー策定WGの開催
GaKuNin RDM 正式公開について検討

・ポイント

全学SDの開催からポリシーの策定まで、
学長主導の小規模グループで進捗

補足：メディアネットセンターの役割



← 法人直下の組織

トピックス：全学SDの反応(1)

2022年6月 東邦としての初めの一步

- ・ 良いシステムが出来上がってきているのだと分かりました。お話しありがとうございました。しかし、やはり手間を考えるとデータを登録するのは大変そうだな。とは感じます。
- ・ データサイエンスを専門としている人にはわかりやすい内容だったと思いますが、いわゆるウェットな実験系を扱っている者にとって、わからないことだらけでした。実装された場合に使用説明会があるかと思しますので、その時に解決できたら、と思います。
- ・ 恥ずかしながら、オープンサイエンス＝市民科学 という狭隘なイメージにとらわれていましたので、本日冒頭の説明により、まずもって蒙を啓かれました。クローズドデータの管理から始めるという方向性を確認することができましたので、今後も関心を持っていきたいと思えます。貴重なお話をありがとうございました。



トピックス：全学SDの反応(2)

- ・ 先行する運用事例についてもう少し知りたかったのですが、プライバシーの問題もあり難しそうですね。セキュリティや費用など問題がありそうな気がしますが、全学的な研究データ管理(と公開)は当然の流れですので、頑張っけて付いていきたいと思ひます。大変勉強になりました。どうもありがとうございました。
- ・ 研究データ管理の必要性とその方法について知る良い機会になった

- ・ おおむね、好意的。
- ・ 研究データ管理の必要性については、一定の認識が得られている。
- ・ 具体的に何をどうするかについては、これから。

2. 2つのアンケート調査

アンケート調査については、当日の発表とする

3. 今後の課題

今度の課題

- WGでは、アンケート結果等を踏まえ、正式公開へ向けた検討を行った。

ルール整備の必要性

- 正式運用にあたり、東邦大学として、ある程度、強制力をもったルールを定める必要がある。
現状では、公開しても単にストレージが増えるだけになってしまい利用が進まない。

GakuNin RDMで管理すべく内容の明確化

- GakuNin RDMで学内の研究者が発表した論文の研究データを一元管理することは必要か？
また実際可能か？
- 容量の多いデータについては、入口はGakuNin RDMでデータそのものの保存先は外部ストレージになることが想定される。
- その場合、各研究者には、メタデータの付与を依頼し、メタデータを付与できる仕組みを管理すればよいのか。

GakuNin RDM以外の研究管理データリポジトリとの住み分け

- ・本学の場合, Boxが導入済みREDCapを2024年度中に導入予定
このほか電子実験ノートSignals Notebookが利用可能

今後について

- ・正式公開については, これらの課題にある程度, 方向性が見えてからとなる予定である。